

新宮山彦ぐるーぷ第1927回―4

春季連休中の行仙宿への来宿者の対応と

地蔵岳鎖場点検及び笠捨山撤き道の倒木処理作業など

◇実施日：平成29年05月03日(水・祝)～5月04日(木・祝)

5月03日(水) 晴れ

◇参加者：沖崎吉信、濱野兼吉、中前 偉。 3名。

朝8時過ぎに中前宅に寄り、一路行仙へ。途中北山村近くになると急に車の出合いが多くなる。筏下りやラフティングがスタートし年間で一番の賑わう季節である。9時半過ぎから食材、缶ビール1箱、ガソリン缶5ℓを背負子に付け行仙宿に向う。

昨晩は連休中の谷間となり小屋番不在の為、小屋内も静かである。汲み置きの水が少ない。昼食迄の間に3人で登山口の水場に水汲みに降りる。7ℓポリタン4個、10ℓポリタン1個、計38ℓ採取して戻り昼食。

持経宿からの登山客(安保さん)1名が到着、今日はここで泊ること。

今日、明日のメイン作業は、塩川君から指摘のあった地蔵岳の鎖が一ヶ所支えの木が腐り危険であるとの情報への対応と川島代表から「旧通信道に杉の木が一本倒れこんでいるので除去頼む」。

又、途中に大ハンマー置いてあるので回収してきてくれ」との課題であったが、午後から地蔵岳をピストンは無理なので、チェンソーの点検や片付け、来宿舎の対応などで過ごす。

一人二人と宿泊者が、やって来る。本日のメイン客は大和郡山市の堀川さんグループ8人であるが、先着者に聞くと涅槃岳近くで追い越した。持経宿で休憩中であつた。なかにはあのペースでは行仙宿到着は相当遅くなる。又、行仙宿迄無理。一人相撲取りみたいな良く太った人も居たなどの話で不安がよぎる。

16時半頃よりより夕食の準備にとりかかる。

管理棟へ宮城県からの匂坂(ごぎさか)、東京からの山口君の二人を加え五人で焼肉パーティー。山口君からは山仲間から5月3日は行仙宿で必ず山菜天麩羅パーティーがあることを聞き、それを楽しみに急いで来た、40才の可愛い良くしゃべる児であつた。

宴たけなわの18時半過ぎ、持経宿・床の間下の小さな窓から、8人グループが見えた。小屋に行き対応。朝4時前鬼を出て此処まで14時間を要し、相当お疲れの様子であつた。

応対中、予約のあった大阪の清水君も到着した。予約時の話では、本宮から行仙宿まで行く。走り屋ではないとの話から、二日間のコースなので絶対無理と忠告したがやって来た。

夜中の2時に本宮を出て18時間かかったとの話。食事の後直ぐ寝込んだ。

翌日聞けば、この日も夜中1時半頃に弥山迄行くと出て行ったらしく、おそらく二泊三日で大峯奥駈道90kmを駆け抜けるつもりらしい。いやはやすごいのおおる。

5月04日(木) 曇り

◇参加者：沖崎吉信、濱野兼吉、中前 偉、川島 功。 4名。

3人で地蔵岳へ向け7時半過ぎに出発した。

奥駈道分岐から葛川辻出合迄の間に、7～8分間隔で1から10の番号札をかけた。この番号札は、捲き道の場所を特定するための札で、6番手前が崩れているとか、4番札の下にハンマーを置いて来たとか、札の有効利用を願いたい。

途中、代表の倒木処理指令のあった杉が横たわっている。これは処理しにくい、帰りにやろうと話し合い先を急ぐ。

地蔵岳に取りつき、米沢先生追悼標板の近くと聞いていたが良く判らんし変な所は無い、何処か何処だろうと鎖場終点近く迄来

てしまった。玉岡さんが気にしていた梶野君改善のハーケンも検分して引き返し、地藏岳の地藏様に手を合わせる。

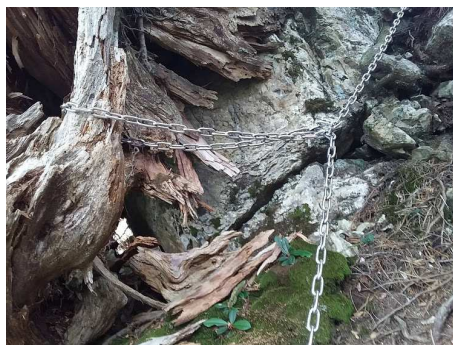
再度、米沢先生標板の上を入念に見た。どうも此処らしい、梶野君が送ってくれた写真からも間違いない。

支点の古木は一部剥がれているが、心材がしっかりしているもので、どこか判らなかったと言う事は、当面支障が無く危険で無いと言うことだと判断した。

笠捨山捲き道(旧通信道)の杉の倒木地点まで戻り処理にかかる。ああでもない、こうしたら危ないと話し合って、根っ子の残った部分を切り落とすことになった。持参の玄翁で抱き込んで石を落とし、根をチェーンソーで切断したら上手くいった。30分近くかかったか。だが根の切断中に石があり、チェーンソー刃の切れが悪くなり、次回使用時には刃を交換する必要がある。

12時半頃に小屋に戻る。
昼食後、本日の小屋番・川島代表に後を託して14時過ぎに下山した。

(記 沖崎)



塩川君指摘の鎖場